

まちづくり協議会 PR 施策事業



取組地区：妻ヶ丘地区
取組年度：平成 30 年度
事業主体：妻ヶ丘地区まちづくり協議会
事業費：298,620 円（基金活用額：298,620 円）
問合わせ：23-8592

課題・取組みの概要

○妻ヶ丘まち協の認知度が低いので、活動内容を知ってもらい、イベントの参加者を増やしたいとの声があった。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 妻ヶ丘まち協のキャッチフレーズやロゴマークをプリントしたのぼりを作製し、自治公民館、地区公民館に掲げることで、イベント参加者の連帯感が高まり、雰囲気作りに役立っている。また、まち協の認知度向上に大いに貢献できた。
- まち協の年間行事の写真を掲載したカレンダーを作製し、各世帯、学校、商店等に配布したことで、まち協の PR になった。

今後の課題・アドバイス等

- のぼりの劣化が進むので、追加で作製が必要である。
- カレンダーは一年限りなので、継続した PR の方法を探す必要がある。

シンボルマーク等普及促進事業



取組地区：妻ヶ丘地区
取組年度：令和元年度
事業主体：妻ヶ丘地区まちづくり協議会
事業費：101,200 円（基金活用額：100,000 円）
問合わせ：23-8592

課題・取組みの概要

○妻ヶ丘地区まちづくり協議会では、シンボルマークやイメージキャラクターを有しているが、一般に浸透していない。このため、額に入れたものを地区公民館、自治公民館に掲示し、まちづくり協議会のイメージを高揚させ、地域の活性化を図る。

成果・事業の特徴・工夫したこと

○シンボルマーク、イメージキャラクターの存在とそれが出来上がった経緯を地域住民に知ってもらうことにより、まち協に対して親近感を持ってもらえるようになったと感じる。

今後の課題・アドバイス等

○額や横断幕以外の方法でも、地域に浸透させていく努力が必要である。

祝吉地区まちづくり協議会活動充実事業



取組地区：祝吉地区
取組年度：令和2年度
事業主体：祝吉地区まちづくり協議会
事業費：1,155,000円（基金活用額：1,155,000円）
問合わせ：23-2890（祝吉地区公民館）

課題・取組みの概要

- 屋外でイベント等を実施する場合の音響機器は地区公民館のものを借用していたが、機器の老朽化により十分な活動ができない。
- ポータブルアンプ1台を購入、併せてワイヤレスチューナーを増設し、マイク3本が使用できる環境を整え、活動環境の充実を図る。
- 活動の充実の伴い、備品数も増え保管場所が不足している。
- 備品の保管場所として地区公民館駐車場内に備品倉庫1棟を設置する。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 標準装備のワイヤレスチューナー1基に加え、チューナー2基を増設しマイク3本が使用できる環境を整えた。
- 備品の保管場所を確保するため、地区公民館駐車場東側に保管倉庫を設置した。
保管場所を確保することによりイベント開催時の準備の効率化を図ることができる。

今後の課題・アドバイス等

- 地区公民館敷地内に保管倉庫を設置しているため、毎年、目的外使用申請が必要である。

自治公民館魅力向上事業



取組地区：五十市地区

取組年度：平成 30 年度

事業主体：五十市地区まちづくり協議会

事業費：3,511,015 円（基金活用額：3,511,015 円）

問合わせ：23-2184

課題・取組みの概要

- 県や市等から DVD 等が自治公民館に配布されても、再生環境のない自治公民館が多かった。
- 配布物等の活用に加え、各自治公民館が実施する各世代に応じた事業を、より効果的かつ魅力的に展開するツールとして、大型テレビと DVD プレーヤーを整備した。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 総会や敬老会等で活用する自治公民館が多くみられ、新たに「こけないからだづくり講座」を始める館（3 館）があった。また DVD を独自に作成し他館へ配布した事例もあった。
- 機器はまちづくり協議会の所有とし、各館に無償で貸与した。
- 年度末の館長会で、利用の実績報告や情報交換等を行い、活用を促している。
- 市立図書館の貸し出しカードを準備し、各館が図書館の DVD 等を活用できるようにした。

今後の課題・アドバイス等

- 耐用年数（5 年）を経過した後は、各自治公民館に所有権を移譲する。

新まちづくり計画策定事業



取組地区：五十市地区
取組年度：令和2年度
事業主体：五十市地区まちづくり協議会
事業費：711,127円（基金活用額：711,000円）
問合わせ：23-2184

課題・取組みの概要

- 協議会設立を機に策定した「まちづくり計画」が令和2年度に計画期間満了を迎えることから、新しい計画づくりに取り組むことになった。
- 計画づくりに伴い、印刷機の購入やのぼり旗の新調等を行い、計画の周知等に努めた。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 専門部会（地域づくり部会、青少年部会、環境・防犯部会、健康福祉部会）ごとに、新しい事業計画案を作ることができた。
- キャッチフレーズは、専門部会ごとに、募集から決定、表彰に至るまで五十市中学校の協力で完成させることができた。

今後の課題・アドバイス等

- 前回計画と同様に事業計画案は、①すぐに取り組む事業、②3年後までに取り組む事業、③5年後までに取り組む事業の3種類に分けて作成した。

横市地区まちづくり協議会活動充実事業



取組地区：横市地区

取組年度：令和2年度

事業主体：横市地区まちづくり協議会

事業費：658,500円（基金活用額：547,000円）

問合わせ：25-2257

課題・取組みの概要

- 老朽化したのぼり旗、ポールを更新・拡充する。
- 創立10周年を迎えたことにより、記念誌を発行する。
- 横市地区まつりで不足していた椅子・テーブルを購入する。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- のぼり旗が新しくなったことで、地域全体に活気がでてくることが期待される。
- まちづくり協議会創立10周年記念誌を発行することで、まち協への理解・協力を図っている。
- 高机、椅子を購入し、横市地区まつり他各事業で活用する。

今後の課題・アドバイス等

- のぼり旗や椅子・テーブルの更新に係る費用を計画する必要がある。

自治公民館活動充実事業



取組地区：横市地区

取組年度：令和2年度

事業主体：横市地区自治公民館連絡協議会

事業費：1,033,000円（基金活用額：1,033,000円）

問合わせ：25-2257

課題・取組みの概要

- 自治公民館活動ではこれまで座机が主であったが、最近では、腰・膝の負担の少ない高机・イスを要望する声が多くなっていた。
- 折りたたみイス・折りたたみテーブルを購入した。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 各自治公民館の規模や希望を基に備品を配付した。

今後の課題・アドバイス等

- 購入した備品は各自治公民館が管理する。

生きがいつくり事業



取組地区：志和池地区

取組年度：令和2年度

事業主体：志和池地区まちづくり協議会

事業費：336,952円（基金活用額：336,952円）

問い合わせ：36-0519

課題・取組みの概要

- 高齢者の生きがいつくりのため、生涯学習講座で使用する機材の整備が必要となった。
- 学習内容の充実に加え、学習へのきっかけづくりや仲間づくり、地域づくりへ発展していくことを目的にパソコン・プロジェクター・スクリーンを購入した。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 地区内の公民館に市の出前講座や講師を招き、健康・福祉・人権・詐欺防止等の講座を開催した際に、放送機材を活用することにより理解が深まる。

今後の課題・アドバイス等

- 高齢者を対象としたものだけでなく、一般の方の講習会や研修会等にも有効活用していく必要がある。

まちづくり環境整備事業



取組地区：志和池地区

取組年度：令和 2 年度

事業主体：志和池地区まちづくり協議会

事業費：2,431,000 円（基金活用額：2,420,000 円）

問合わせ：36-0519

課題・取組みの概要

- まち協の備品は、志和池地区公民館の外部倉庫に収納していたが、地区公民館・市民センターの建設事業に伴い、倉庫が解体されることになった。
- 志和池地区公民館敷地内の一画に市の許可を取り、まち協のイベント開催に必要な備品等を収納できる倉庫（約 12 坪）を整備した。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- これまで志和池地区公民館内に 3 ヶ所、志和池地区体育管内 1 ヶ所、志和池中学校倉庫 1 ヶ所に分散していたまち協の備品等を 1 ヶ所に収納できるようになった
- イベント開催時の出し入れや、備品の配置・管理が効率的に実施できるようになった。

今後の課題・アドバイス等

- 倉庫は、今後、収納物が多少増えても十分な広さを確保している。
- 収納スペースだけでなく、作業スペースも確保しておくとう便利である。

ロゴマーク作成事業

完成したロゴマーク



庄内地区公民館国旗・市旗掲揚台



取組地区：庄内地区

取組年度：平成 30 年度

事業主体：庄内地区まちづくり協議会

事業費：410,760 円（基金活用額：408,000 円）

問い合わせ：37-3488

課題・取組みの概要

○庄内地区の一体感を醸成するために、まちづくり協議会のロゴマークを作成。協議会旗や印刷物、その他で活用する。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 庄内中学校生徒からロゴマークを公募し、優秀作を選定。原案をプロデザイナーに依頼し、ロゴマークを完成させる。ロゴマークを配した「庄内まちづくり協議会旗」を作成し、イベントや研修会の時に掲示した。
- 国旗・市旗に並べて、ロゴマーク入りの「まちづくり協議会旗」を掲揚し、地区に周知する。
- 躍動感のあるロゴマークは、多くの人に好感をもって受け入れられている。

今後の課題・アドバイス等

- 「まちづくり協議会旗」は常時掲揚しているため、経年劣化による交換時期の検討が必要である。

環境整備事業

倉庫完成写真



倉庫内部写真



取組地区：庄内地区
取組年度：令和元年度
事業主体：庄内地区まちづくり協議会
事業費：4,758,000 円（基金活用額：3,000,000 円）
問合わせ：37-3488

課題・取組みの概要

○地域の活性化のためにまち協を中心として開催するイベントに必要な備品等を収納する倉庫を整備した。

成果・事業の特徴・工夫したこと

○令和2年度に整備した防災対策備品についても、倉庫内に収納し台帳管理している。
○大型の備品等も格納できるよう棚の高さを調整したり、出し入れしやすいよう階段も設置した。

今後の課題・アドバイス等

○整備した備品の定期的な確認・点検を行うための点検簿の整備が必要である。

ハッピー作製事業

まちづくり協議会ハッピー



「心のプレゼント運動」ハッピー



取組地区：庄内地区
 取組年度：令和元年度
 事業主体：庄内地区まちづくり協議会
 事業費：704,160 円（基金活用額：704,000 円）
 問合わせ：37-3488

課題・取組みの概要

- 平成 30 年度事業で庄内地区の一体感を醸成するために、まちづくり協議会のロゴマークを作成した。また、平成 15 年から地域をあげて「明るいあいさつ、ありがとう、人がよろこぶこと」を進める「心のプレゼント運動」を実施している。
- まちづくり協議会のロゴマークを入れた法被 100 枚と「心のプレゼント運動」法被 30 枚を作成。イベント等や各学校行事に活用する。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- まちづくり協議会主催のイベントや夏まつり等でスタッフが活用し、地区の一体感を醸成できた。
- 「心のプレゼント運動」の取り組みとして、庄内中学校生徒に 20 着貸与し、あいさつ運動等で活用している。また、社会福祉協議会に 10 着貸与し、介護者のつどい、座談会などで着用し、啓発に努めている。

今後の課題・アドバイス等

- コロナ禍で法被を活用する場面が少なかった。
- 経年劣化に備え、交換時期の検討が必要である。

西岳米を活用したまちづくり事業



取組地区：西岳地区

取組年度：令和元年度

事業主体：西岳地区まちづくり協議会

事業費：5,983,535 円（基金活用額：5,983,535 円）

問合わせ：33-2000

課題・取組みの概要

- 西岳地区は食料品や生活用品の販売店が極端に不足し、住民の日常生活に不便を来している。また、毎日食する米の精米所も例外でなく、数年前から1軒もない状況である。
- 精米直後の地元の美味しい「西岳米」を、地域の方々はもとより親戚、友人等の地域外の方々にも味わっていただく。
- 収穫したばかりの「西岳米」を精米。地区文化祭等で振る舞うなどして、地域にある良質な産品を再確認してもらい、地産地消を推奨しながら、地域の活性化を図る。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 事業費圧縮のため、複数社の見積りをとった。
- 使用実績を毎月管理。実績表作成のほか写真管理を行っている。
- 県外の親戚や友人等から、「西岳米は美味しい」との好評な意見を良く耳にするようになった。

今後の課題・アドバイス等

- ベルト更新、修理等のランニングコストが掛かり、農協と連携することで費用削減を図っている。
- 精米の際に出る粃殻、糠の搬出先や搬出手段を事前に検討しておく必要がある。

郷土愛育成事業



取組地区：中郷地区
取組年度：令和 2 年度
事業主体：中郷地区まちづくり協議会
事業費：279,400 円（基金活用額：279,000 円）
問い合わせ：39-0713

課題・取組みの概要

- 地区内の各団体は、視聴用機器をほとんど持っていないことから、平成 30 年度に作成した中郷地区の紹介 DVD を活用できない状況がある。
- 視聴用機器（パソコン、プロジェクター、スクリーン）を購入し、地域の自治公民館や各種団体等への貸出を行う。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- DVD を多くの地域住民に見ていただくことで郷土愛の醸成に繋がった。
- 会議の手法の一つとして選択肢が増えた。（ペーパーレス化）
- 備品台帳で貸出等を管理している。

今後の課題・アドバイス等

- 電気製品は、耐用年数や修理用部品の保有年数が短いことから、更新時費用の積立が必要である。

未来へつなぐ山之口の情報発信事業



取組地区：山之口地区
 取組年度：平成 30 年度
 事業主体：山之口地区まちづくり協議会
 事業費：1,315,288 円（基金活用額：1,313,000 円）
 問合わせ：57-3114

課題・取組みの概要

- 自然や文化、産業、人材等の地域資源の魅力について、ICT を活用し、未来を担う世代へ積極的に情報を発信し人材育成を行う。
- 山之口地区の情報を発信するホームページを作成し、空撮写真・動画（地域の観光資源、防災情報）を交えイメージキャラクターを 3D 化して主催イベント、地域の魅力等の情報発信を行う。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 山之口地区まちづくり協議会のホームページを開設することができた。
- ドローンを活用して空撮した動画等を掲載できた。
- 山之口イメージキャラクター3体の3D化を行った。
- まちづくり協議会において記事のアップロードを可能にした。

今後の課題・アドバイス等

- 定期的または、行事等 PR のため必要に応じて更新を行う。

高城地区まち協ホームページ開設事業



取組地区：高城地区

取組年度：平成 29 年度

事業主体：高城地区まちづくり協議会

事業費：278,316 円（基金活用額：269,000 円）

問合わせ：58-2317（高城生涯学習センター）

課題・取組みの概要

○高城地区まちづくり協議会設立から 3 年目を迎え、高城地区の民主団体や学校等の活動や地域の魅力を発信するためにホームページを開設した。

成果・事業の特徴・工夫したこと

○高城地区の歴史や文化、イベント等を紹介し、定期的にホームページを更新している。

今後の課題・アドバイス等

○今後は、集落の産業祭りや収穫祭などのイベント等を掲載していく。
また、民主団体等の活動状況等についても掲載していく。

まちづくり協議会活動充実事業



取組地区：高城地区
取組年度：令和2年度
事業主体：高城地区まちづくり協議会
事業費：1,461,640円（基金活用額：1,461,000円）
問合わせ：58-2317（高城生涯学習センター内）

課題・取組みの概要

- 高城地区の地域活性化を図る事業を推進していくために、まちづくり協議会の各種備品等を保管する倉庫の整備が必要であった。
- また、新型コロナウイルス感染症の拡大予防対策として、各地域の公民館に扇風機を整備する必要があった。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 倉庫を整備したことで、今後も新規事業を展開しながら備品等を整備し、適正に管理できるようになった。
- 新型コロナウイルス感染症の拡大は、先を見通せない状況であったが、各自治公民館に扇風機を整備し、地域住民が安全に会議等の公民館活動を行うことができるようになった。

今後の課題・アドバイス等

- 倉庫の広さは、10坪程度であり、計画的に備品の整備を行う必要がある。

山田地区広報誌発行事業



取組地区：山田地区

取組年度：平成30年度～令和2年度

事業主体：山田地区まちづくり協議会

事業費：3,025,062円（基金活用額：2,993,869円）

問い合わせ：64-1121

課題・取組みの概要

- 山田地区は高齢化率が高く、高齢者のみの世帯や独り暮らしの高齢者も多く、情報が得られず孤立してしまう傾向がある。
- 地域の広報誌「山田いきいき通信」を毎月発行(2,800部)し、各自治公民館長の協力により毎月各戸配付している。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 地域の身近な出来事や話題を提供することにより、社会や地域の連帯を生む「絆」が創られている。
- まちづくり協議会内に広報誌編集委員会を組織し、製作している。
- イベントの告知や各種サークルの紹介等地域の情報を提供し、有効に活用されている。

今後の課題・アドバイス等

- 今後も継続して発行していくこととしているが、編集委員11名が月3回程度集まり、原稿作成、校正及び発送準備等を行っており、委員の負担も大きい。

町興し活動充実事業



取組地区：山田地区
取組年度：令和2年度
事業主体：山田地区まちづくり協議会
事業費：208,010円（基金活用額：200,000円）
問い合わせ：64-1121

課題・取組みの概要

- 活動時に着用する、スタッフベストを50着購入した。
- スタッフベストは、協議会発足当初作成した経緯があるが、欠損やその後の委員の増加に伴い、不足が生じていたため、再整備した。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 活動時にそろいのベストを着用することにより、地域へのアピール効果や防犯効果が得られる。
- 会員の意識の向上にも繋がり、活動の促進を図るために必要なアイテムである。
- 欠損等を防ぐため、台帳や貸し出し簿を整備し管理している。

今後の課題・アドバイス等

- 各種イベントのほか、交通安全週間や児童生徒の登下校時の見守り啓発に発揮できる機会を増やさなければならない。

まちづくり協議会活動充実事業



取組地区：山田地区

取組年度：令和2年度

事業主体：山田地区まちづくり協議会

事業費：2,167,774円（基金活用額：2,000,000円）

問合わせ：64-1121

課題・取組みの概要

- まちづくり協議会には専用の倉庫がなく、活動に支障をきたしていた。
- 倉庫2棟をまちづくり協議会事務局がある山田総合支所敷地内に設置した。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 事務局近辺に設置することにより、利便性がよくなり、作業効率がアップした。
- まちづくり協議会の活動拠点として、また会員が必要時に利用できるなど利用の幅が広がり、活動促進を図ることができている。
- 山田総合支所敷地内に設置したため、市と綿密な調整が必要であった。

今後の課題・アドバイス等

- 市の敷地内に設置したため、毎年、公有財産の土地使用賃貸契約の手続きが必要である。

ホームページ開設事業



取組地区：高崎地区
取組年度：令和元年度
事業主体：高崎地区まちづくり協議会
事業費：366,200 円（基金活用額：366,200 円）
問合わせ：62-1111（内線 211）

課題・取組みの概要

- 高崎地区まちづくり協議会の活動内容について、年 2 回広報紙（まち協だより）を作成して公民館に配布し周知しているが、住民への認知度が低い。
- 高崎地区自公連、体育協会等と連携して、活動の輪を広めているものの今後の更なる町内外へ情報発信を行う手段として、高崎地区まちづくり協議会のホームページを作成する。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- ホームページ等の管理・更新を、外部専門家へ委託を行うことで、担当者の異動に伴うスキル低下を防止した。
- 高崎地区まちづくり協議会発行の情報誌、施設設置している「たかぎきマップ」等に QR コードを掲載し、高崎地区まちづくり協議会ホームページへリンクしている。

今後の課題・アドバイス等

- 魅力あるホームページを維持する為に、他の団体等と連携し情報収集を行い随時、ホームページの内容更新を行う必要がある。

自治公民館連携強化事業



取組地区：高崎地区

取組年度：令和元年度～令和2年度

事業主体：高崎地区自治公民館連絡協議会

事業費：162,217 円（基金活用額：162,217 円）

問合わせ：62-1111

課題・取組みの概要

- 高崎地区は、都城市内 15 地区の中で最も多い 43 自治公民館があり、公民館加入率は約 8 割に達している。
- しかし、高齢化時代に伴い加入世帯数も減少し、公民館運営は厳しさを増している。
- 地域の課題解決や公民館の活性化を図る必要があるため、勉強会として当該事業を実施することとなった。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 年 5 回の委員会や外部講師を招いての講演会・事例研修会、自治公民館長を対象としたアンケート調査等を実施した。
- 講演会をきっかけに、地域活性化のツールとして「フットパス事業」に取り組むこととなった。
- 委員会で高崎地区の現状と 10 年後について検証・協議を行い、課題の抽出と将来の方向性を導き出すことができた。

今後の課題・アドバイス等

- 委員会で検証・協議された内容を、地区住民に広く周知し、地域の活性化や公民館の統廃合などを考えるきっかけづくりを行っていく。

自治公民館連携地域対策事業



取組地区：高崎地区
取組年度：令和 2 年度
事業主体：高崎地区自治公民館連絡協議会
事業費：260,470 円（基金活用額：220,000 円）
問合わせ：62-1111

課題・取組みの概要

- 高崎地区は、少子高齢化による人口減少が著しく、自治公民館組織の維持が困難な状況になりつつある。
- 高崎地区自治公民館統廃合特別委員会の講演会をきっかけに、地域のつながりを維持し、田園風景など既存の地域資源を掘り起し関係人口の増加が期待できる事業として、令和 3 年度から「フットパス事業」に取り組むこととなった。
- 令和 3 年度からの「フットパス事業」実施に向けて、地域の自治公民館相互の連携を図るとともに、「フットパス事業」への理解を深めることを目的として取り組むこととなった。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 地元検討委員を 31 名選出し、検討委員会を設立した。
- 北九州市立大学から講師を招いた勉強会や先進地への視察研修を実施し、「フットパス」への理解を深めた。

今後の課題・アドバイス等

- 「フットパス事業」実施に向けて、コースづくりに必要な地域資源の発掘や担い手の育成を行っていく。また、地域住民に「フットパス事業」への理解を広める活動を行っていく。